

緩和ケア研修

34・7%修了

がん診療連携拠点
青森県内6病院医師

八戸市立市民病院など青森県内六つのがん診療連携拠点病院でがん診療に携わる医師587人のうち、34・7%に当たる204人が各病院の緩和ケア研修を修了したことが15日、分かった。国のがん対策推進基本計画では2017年度末までに、同拠点病院に勤める対象医師全ての研修修了を目指している。

同日の県議会決算特別委

員会で、伊吹信一委員（公明・健政）の質問に県側が答えた。

9月30日現在で修了者の内訳をみると八戸市市民病院が22人（対象医師124人）、十和田市立中央病院は24人（42人）、三沢市立三沢病院は12人（20人）、むつ総合病院は26人（52人）。県立中央病院は51人（117人）で、弘前大医学部付属病院は69人（232人）だった。

県がん・生活習慣病対策課によると研修修了者の全国統計がないため、他都道府県との比較はできないと

いう。研修は国の基準にのっとり、各病院が実施している。戸和成健康福祉部長は「17年度までの受講促進を各病院に働き掛けた」との方針を説明した。

（佐々木琢磨）